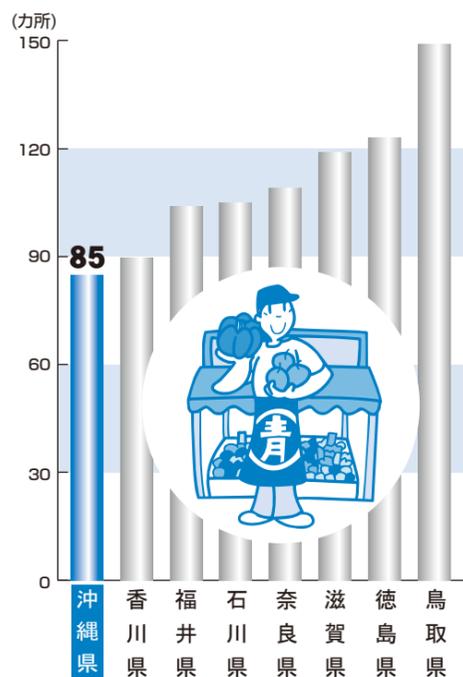


【農産物直売所】

(2010年)



85カ所

地産地消の言葉をよく耳にするようになった。地域の食材を地域で消費しようという取り組みに、多くの人に関心を向けるようになったことの表れだろう。農産物を作る農家にとっても所得が上がり経営も安定する。

しかし新鮮な野菜が選べて、農家にとっても重要な販売先である直売所の数は減っているようだ。

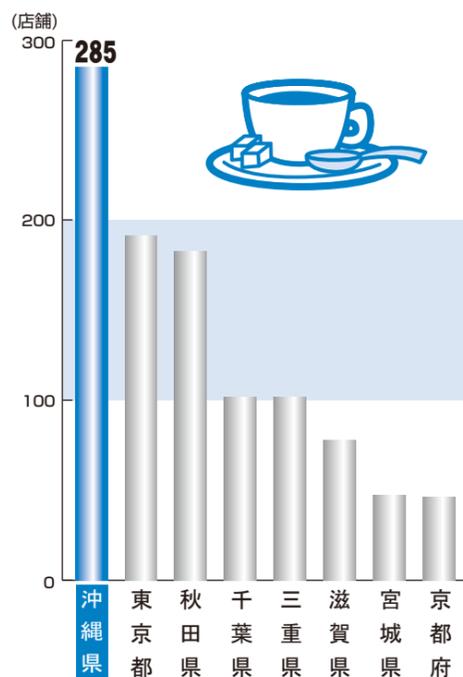
農水省「2010年世界農林業センサス」によれば、沖縄県の農産物直売所数は85カ所と全国一少ない。前回の05年調査と比べても、18.8%減少した。ちなみに全国的には前回調査よりも19.6%増加している。

直売所も競争による統廃合が進み大型化しているとの見方もあるが、多くの農家は高齢者であることから、産地に近い特色のある直売所が増えることを期待したいものだ。

(海邦総研事業支援部／比嘉明彦)

【喫茶店の増加数】

(2008～2009年度)



285店舗

カラコロン…。ドアを開け、地下への階段を下りる。聞きなれない音楽が流れ、雰囲気のある隠れ家的な空間。古いイスとテーブルは、センスを感じる。昔来たことのある喫茶店で、一杯のコーヒーを注文した。

厚生労働省「2009年度衛生行政報告例」では、県内の喫茶店は2,687店。前年度から285店舗増え、全国一。近年、老舗の小喫茶が減少し、大手チェーンの店舗が増えている。

喫茶店と一口に言っても、純喫茶から漫画喫茶、ネットカフェやメイドカフェなど種類は様々。喫茶店業界は、多様化する顧客ニーズに応え、業態の変化が求められる。

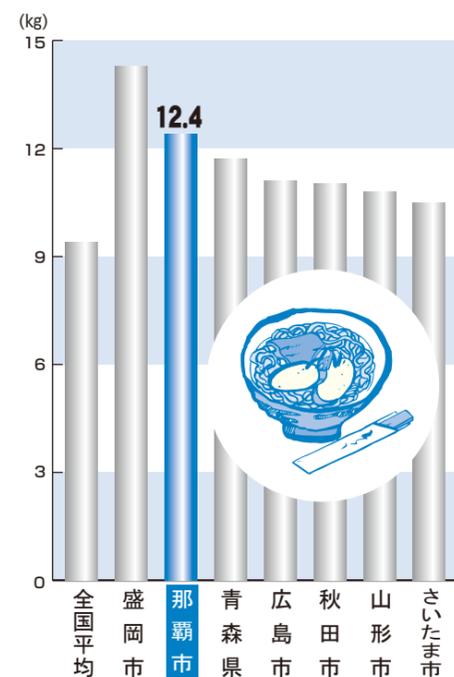
一方、老舗喫茶は変わらないことが強みになる。古い店舗を見ただけで、思い出が蘇る世代がいるからだ。

注文したコーヒーを飲みながら初デートを思い出した。苦いな…。

(海邦総研事業支援部／金城智裕)

【中華めんの購入数量】

(2007～2009年 平均/世帯)



12.4kg

沖縄を代表する郷土料理のひとつ沖縄そば。県民に愛されているだけではなく観光客にも高い人気を誇る。

そばとはいっても、小麦粉100%のめんは、中華めんに分類される。総務省統計局「家計調査」では、那覇市の中華めんの購入数量は12.4kg。これは全国2位の水準だ。ちなみに、1位の盛岡市は「わんこそば」「じゃじゃめん」「冷麺」とめん類の宝庫といわれている。

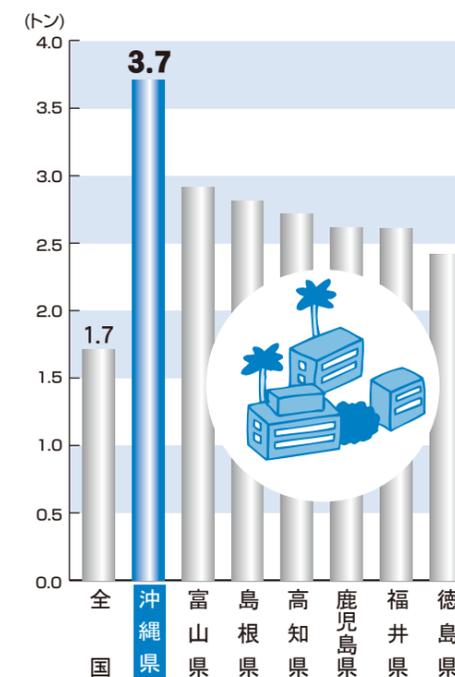
沖縄そばも、そのバリエーションは豊富だ。離島も含めて各地域名が冠されるように、地域ごとに独特のめんがあることはご存知の通りだ。

県内では、焼そばにも使われる沖縄そば。パスタの変わりに沖縄そばなんて方もいるかもしれない。自宅でも沖縄そばを使った新たな創作料理に挑戦すれば、毎日食べても飽きがこないかも？

(海邦総研経営企画部／新里治史)

【コンクリート出荷量】

(2009年度)



3.7トン/1人あたり

沖縄は本土に比べ、住宅の大半がコンクリート住宅であることは、よく知られているところである。実際にはどうだろうか。

全国生コンクリート工業組合連合会「生コンクリートの年度別・都道府県別出荷実績」によると2009年度の沖縄県の出荷量は重さにして約513万トン。県民一人当たりで換算すると約37トンで全国トップとなっている。全国平均の約2倍も使っているのだ。今後も、復帰前後に建築されたコンクリート住宅の立替や、都市部でのマンション建設、複合施設等の建設が想定される。他府県に比べコンクリートをよく使う状態がしばらく続きそう。

一面では、沖縄の独自性や自然が県外以上に早いピッチで失われていくことになる。出荷量の多さは経済的には喜ばしい事だが、環境面を考えると寂しい気がしないだろうか。

(海邦総研経営企画部／中山禎)